

かかりつけ医等の定着促進等に関する市民啓発のあり方について

1 議論の必要性について

- 市民が安心して必要な医療サービスを受けられるようにするためには、地域の医療機能の適切な分化・連携により、急性期から回復期、慢性期を経て在宅療養へ切れ目のない医療連携の流れを作ることや、本人や家族が在宅療養や在宅看取りを希望する場合も、安心して在宅医療が受けられる体制を整備することなどが重要です。
- それら医療連携や在宅医療推進においては、かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬剤師（薬局）の役割が十分に発揮されることが重要であり、かつ、市民本位の医療サービスの基盤づくりという視点のもとで、市民への普及・定着を促進する必要があります。
- また、健康・医療のまちづくりを推進し、医療資源の豊富な本市であるからこそ、市民リテラシーの醸成を促進する意味は非常に大きいと考えます。
- そこで、じょうずな医療へのかかり方を広め、かかりつけ医等の定着促進をするためには、どのような内容を、どのような方法で啓発すべきか、また行政及び医療提供者等ができることは何かなど、市民への普及・定着の方法等についてご議論いただきたいと考えます。

2 論点

- (1) 医療のかかり方やかかりつけ医等の定着についての現状や課題は（取組みの必要性をどう考えるか、また、何が理由で進んでいないのか、あるいは何が影響しているのか）
 - ①病院における市民の受診行動と医療現場の現状・課題
 - ②病診連携・診診連連携の現状・課題
 - ③市民の理解の現状・課題
 - ④行政や医療提供者側の市民への情報提供の現状・課題
- (2) かかりつけ医等の定着促進のために、どのようなことが必要か（対策について）

	現状及び問題 (現状と目標との差異、困った事柄)	課題 (問題を解決するためになすべきこと)	対策の方向性 (課題を克服するために必要な行動内容)	
かかりつけ医等の定着・促進	(1) 病院と診療所との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○循環型連携において、急性期病院と回復期病院、かかりつけ医との顔の見える関係が十分できていない(複数の医師にかかっている場合など、知らない間に薬が増えてる等) ○逆紹介率が紹介率ほど高くない病院もある ○逆紹介の際など、地域の診療所の情報(データやマップ)がない、病院独自で収集しても情報の更新が大変 ○インターネットでの診療所の情報提供システムは、情報の更新が容易だが、市民や診療所の一部はインターネットが身近でない方もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ○普段はかかりつけ医が診て、必要時専門病院でフォローしていくという循環型の医療連携の強化(診療計画の共有や日常の連携の工夫等) ○円滑な紹介・逆紹介の推進 ○地域の診療所についての情報の集約と共有、市民への情報提供(リアルタイムな情報で、更新の負担が少ない診療所情報の集約、病院や市民が利用しやすい方法で、欲しい情報が入手できる情報提供のしくみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○循環型医療連携促進のための地域連携パスなどのシートの活用 ○患者に対する循環型医療連携についての丁寧な説明や、診療所についての情報提供 ○病院に対する逆紹介推進についての啓発 ○地域の診療所情報の集約と情報提供のあり方についての検討(情報収集の方法や更新方法、提供する情報の内容、情報提供の方法等)
	(2) 市民の意識	<ul style="list-style-type: none"> ○診療所が開いている時間帯に病院の救急外来に受診されるというように、診療所と病院の役割について理解されていない方もいる ○大病院志向のある方の存在 ○救急医療の相談先や受診先を知らない人43.9% ○医療機関に役割分担があることの認知度51.7% ○かかりつけ医がいる割合55.3% ○かかりつけ医がある人の7割が市内の診療所がかかりつけ医を持っているが、病気になった時に、場合によっては選定療養費を払っても大規模病院にかかると考えている人が多い ○大病院をかかりつけ医としている人の理由は、高度な機器での検査やたくさんの診療科があるからなどの大規模病院特有の理由ではなく、前から診てもらっているからという理由が一番多い(58.9%) ○かかりつけ薬局を決めている割合38.2% かかりつけ薬局を決めていない理由として、かかった医療機関の近くの薬局に行く方が便利という理由が一番多い(69.5%) ○健康への無関心者、生活習慣病等の放置者、かかりつけ医のいない患者の存在 ○かかりつけ医を決めるうえでの情報が得にくいのではないか(専門科目や連携病院等) ○お薬手帳が活用されていない(薬の一元管理がなされていない)方もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ○かかりつけ医を持つことの意義や医療機関の機能分化・連携についての理解の促進 ○かかりつけ医をもつきっかけづくりや、健康への関心を高めるための働きかけ ○市民に対する地域の診療所の情報提供 ○お薬手帳活用の理解促進と、それによる、かかりつけ医と専門病院、他科の医師同士の連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関の機能分化・連携や、かかりつけ医を持つことの意義等について、行政及び各機関主催の市民啓発の実施 ○健診受診の勧奨と、健診をきっかけとしたかかりつけ医を持つことの勧奨 ○市民に対する地域の診療所の情報提供のあり方についての検討(提供する情報の内容や提供方法等) ○お薬手帳の必要性やメリット等についての市民啓発の実施

資料2-3

かかりつけ医等の定着促進の現状 ～医療に関する市民アンケート調査より～ (平成28年度実施)

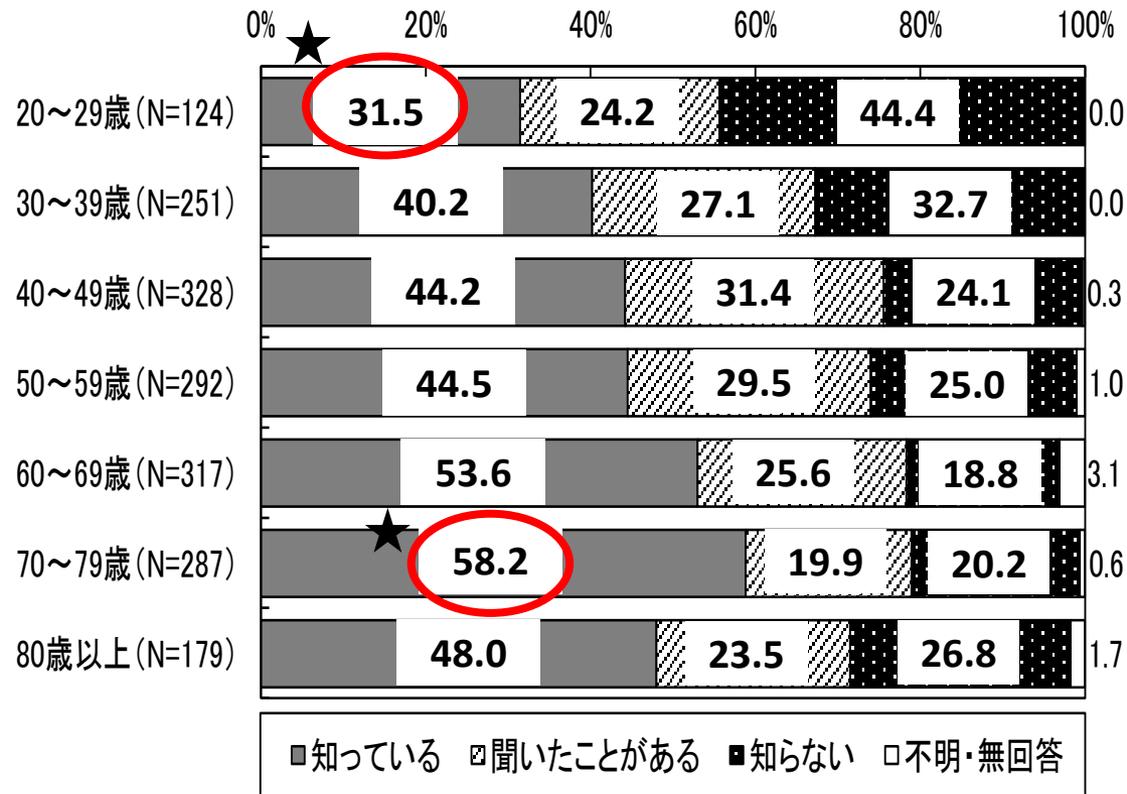
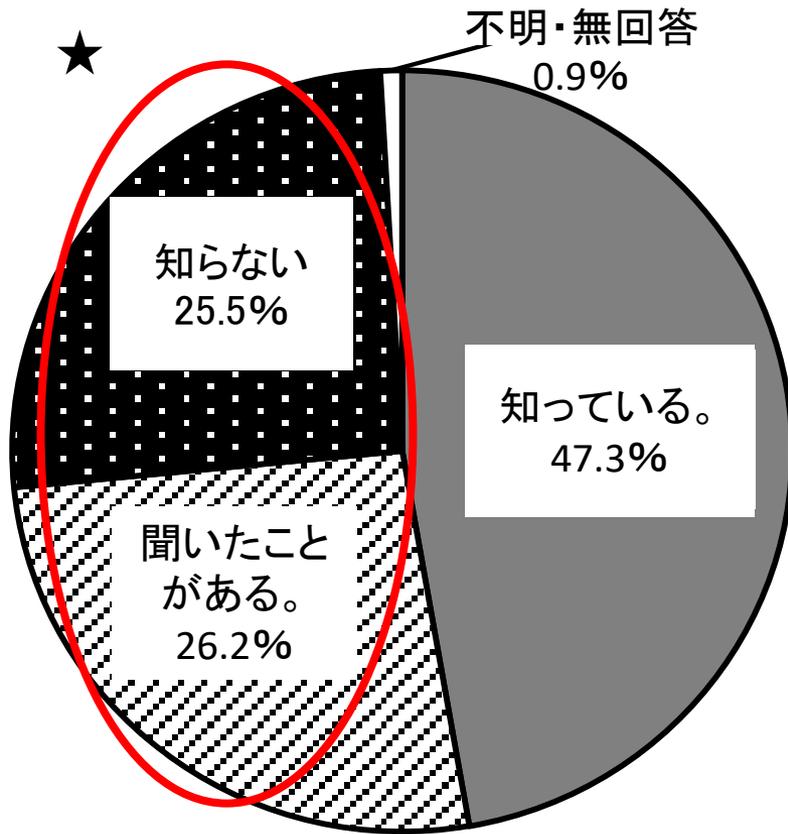
目次

- 1 医療機関の役割について P 2
- 2 かかりつけ医について P 3-4
- 3 かかりつけ歯科医について P 5
- 4 かかりつけ薬局について P 5
- 5 休日・夜間の受診先や相談
ダイヤルの認知度について P 6

1 医療機関の役割について①

医療機関の役割について、51.7%が「十分に認知されていない」※という結果となっている。
 (※「知らない」「聞いたことがある」の合算)

年齢別で見ると、最も認知度の高い70歳代でも、58.2%にとまっている。若い世代ほど認知度は低下する傾向にあり、20～29歳では31.5%程度と最も低くなっている。

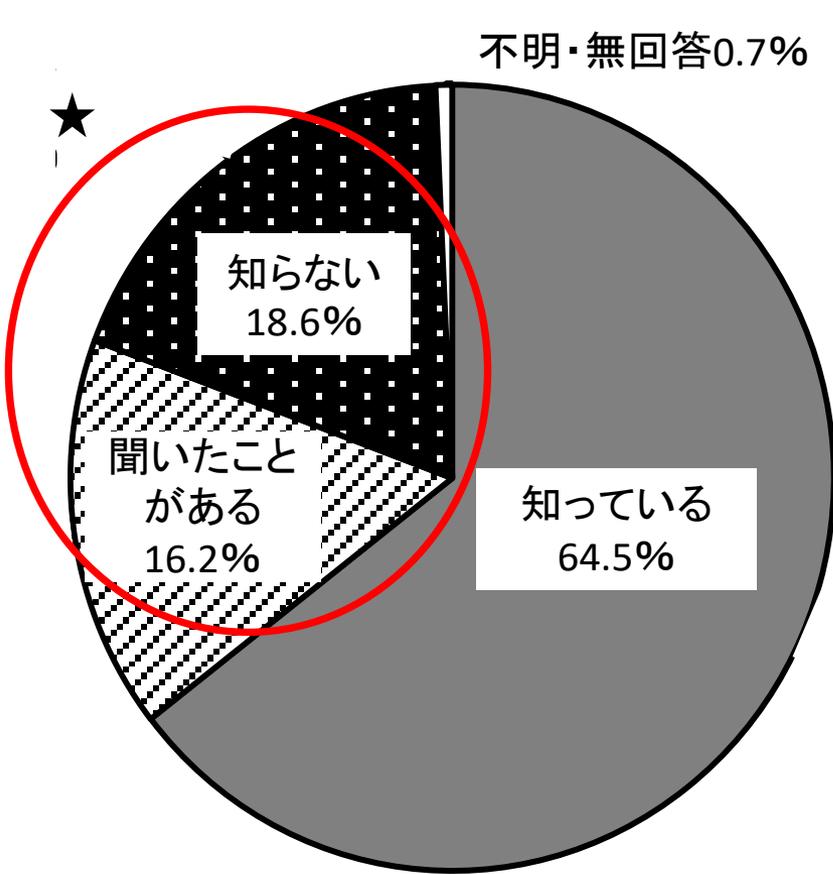


【医療機関の役割に応じた受診への認知度】

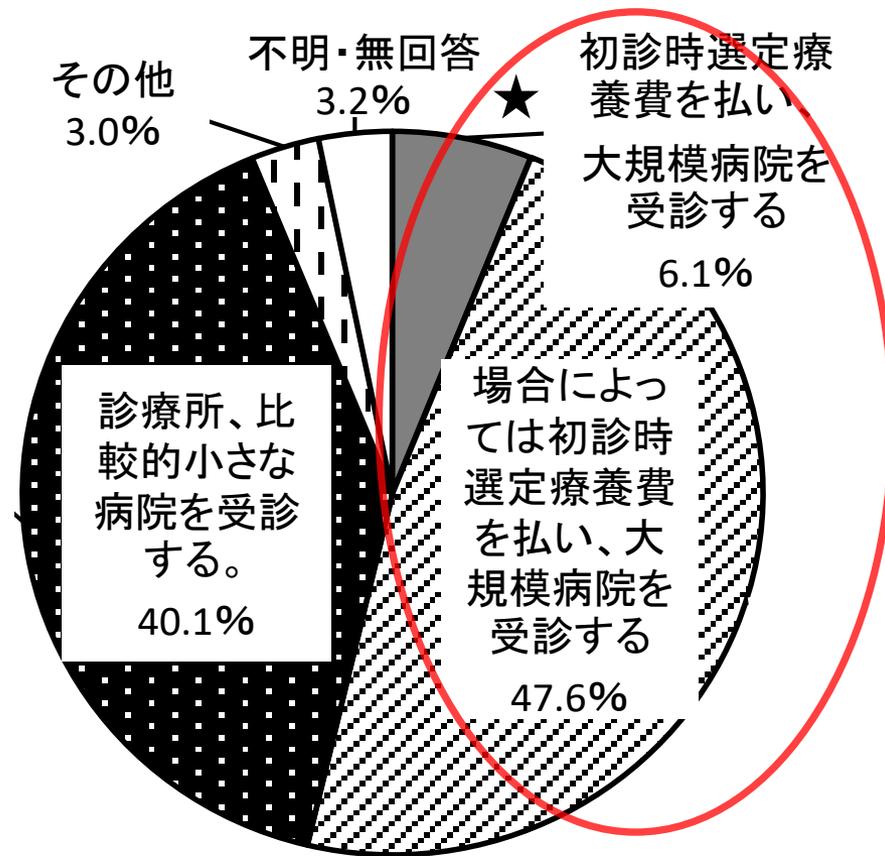
【年齢別の認知度】

1 医療機関の役割について②

初診時選定療養費の認知度では、34.8%の方が「十分に認知されていない」※という結果となっている。（※「知らない」「聞いたことがある」の合算）
また、「初診時選定療養費を払い大規模病院を受診する」が6.1%であるが、「場合によっては、初診時選定療養費を払い大規模病院を受診する」が47.6%と半数を占め、両者を合わせると5割を超えている。



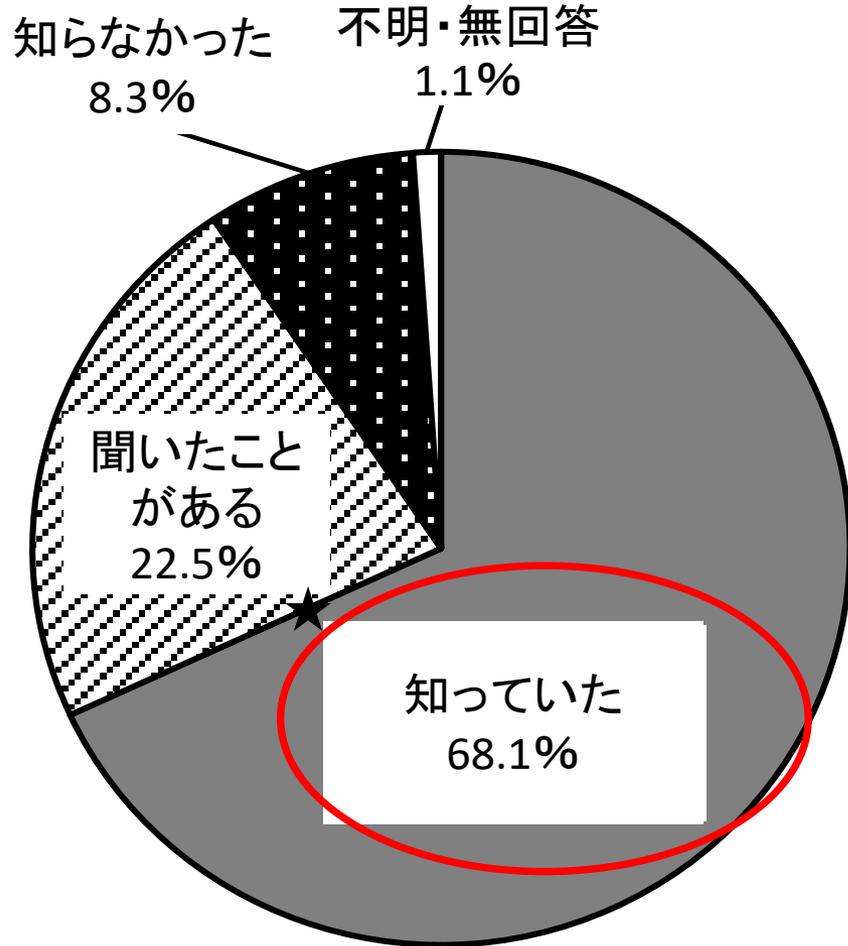
【初診時選定療養費の認知度】



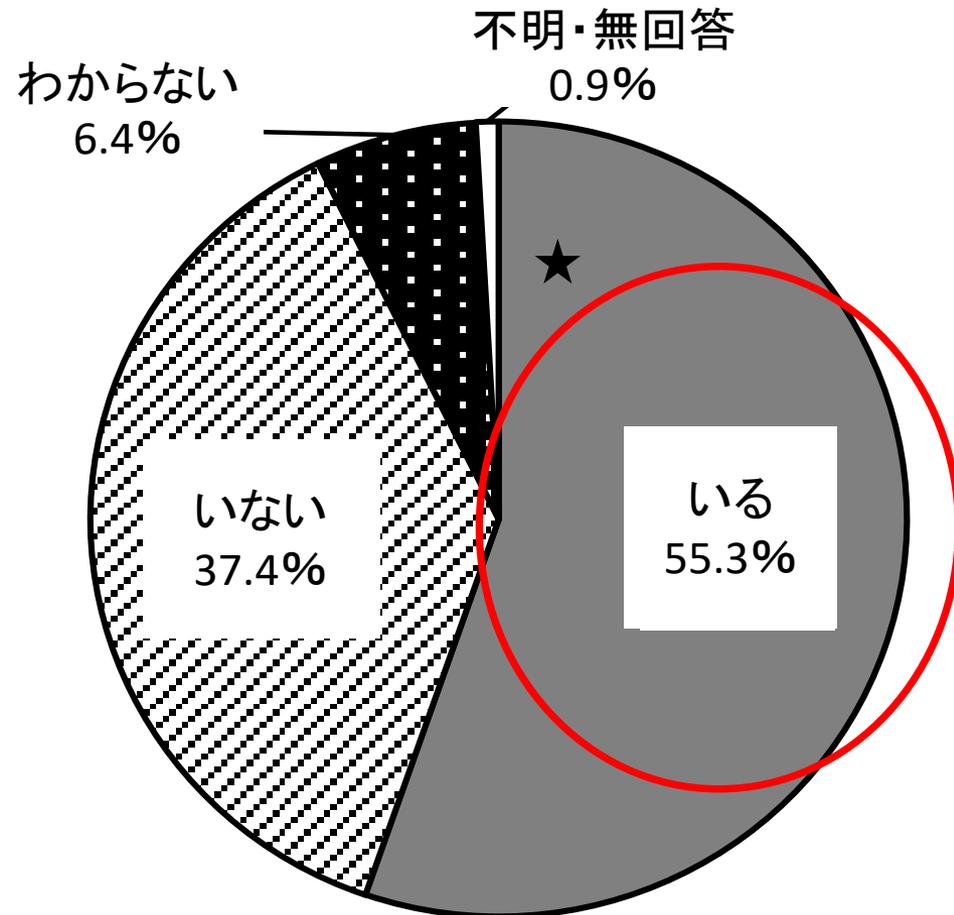
【初診時選定療養費と受診行動】

2 かかりつけ医について①

かかりつけ医の仕組みについて、「知っていた」と答えた方が、68.1%であるが実際にかかりつけ医が「いる」と答えた方は、55.3%であった。



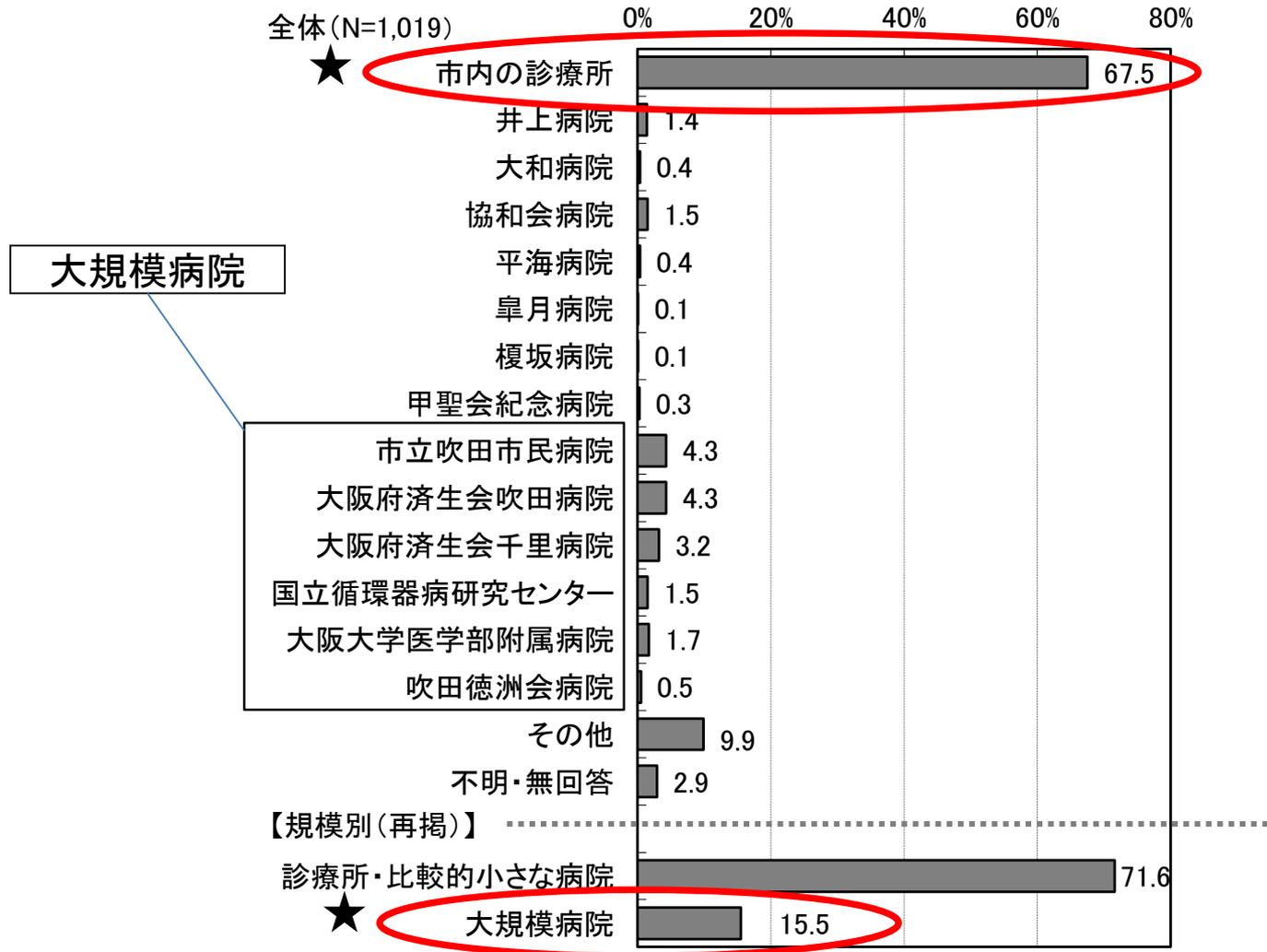
【かかりつけ医の認知度】



【かかりつけ医の有無】

2 かかりつけ医について②

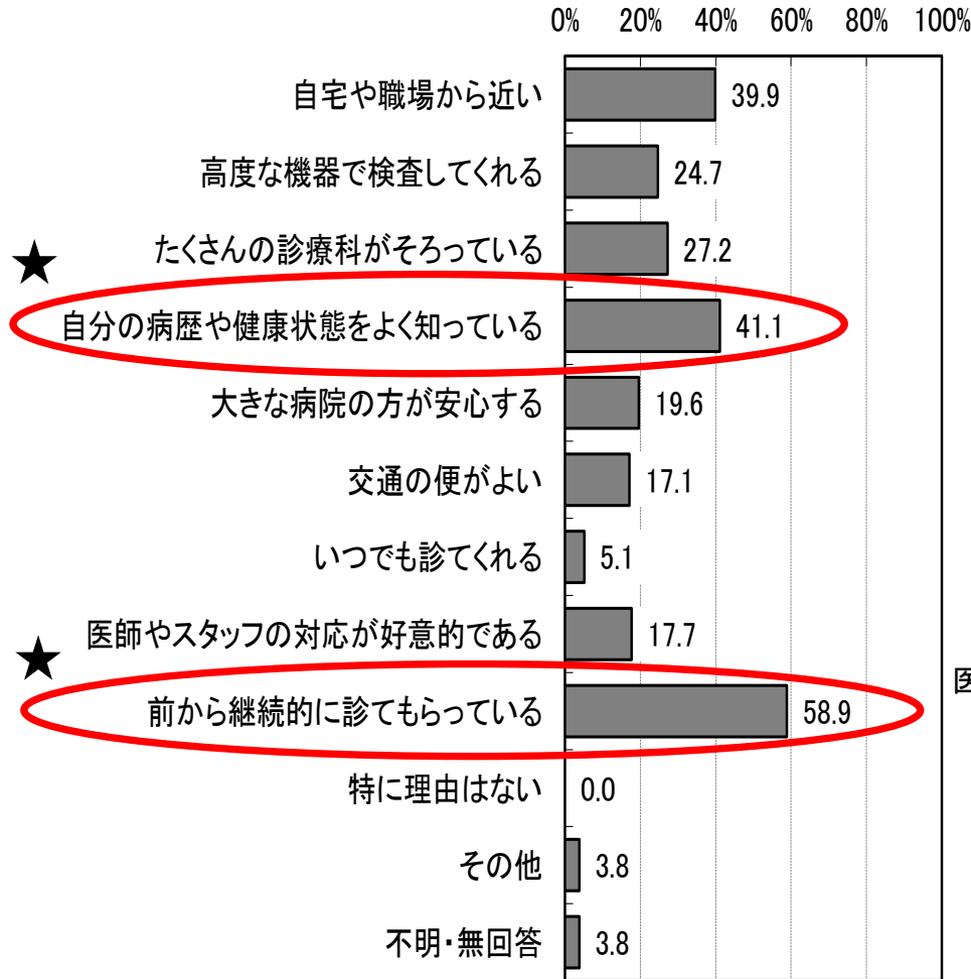
「市内の診療所」をかかりつけ医としている方が67.5%いる。
一方で、「大規模病院」をかかりつけ医としている方が、15.5%いる。



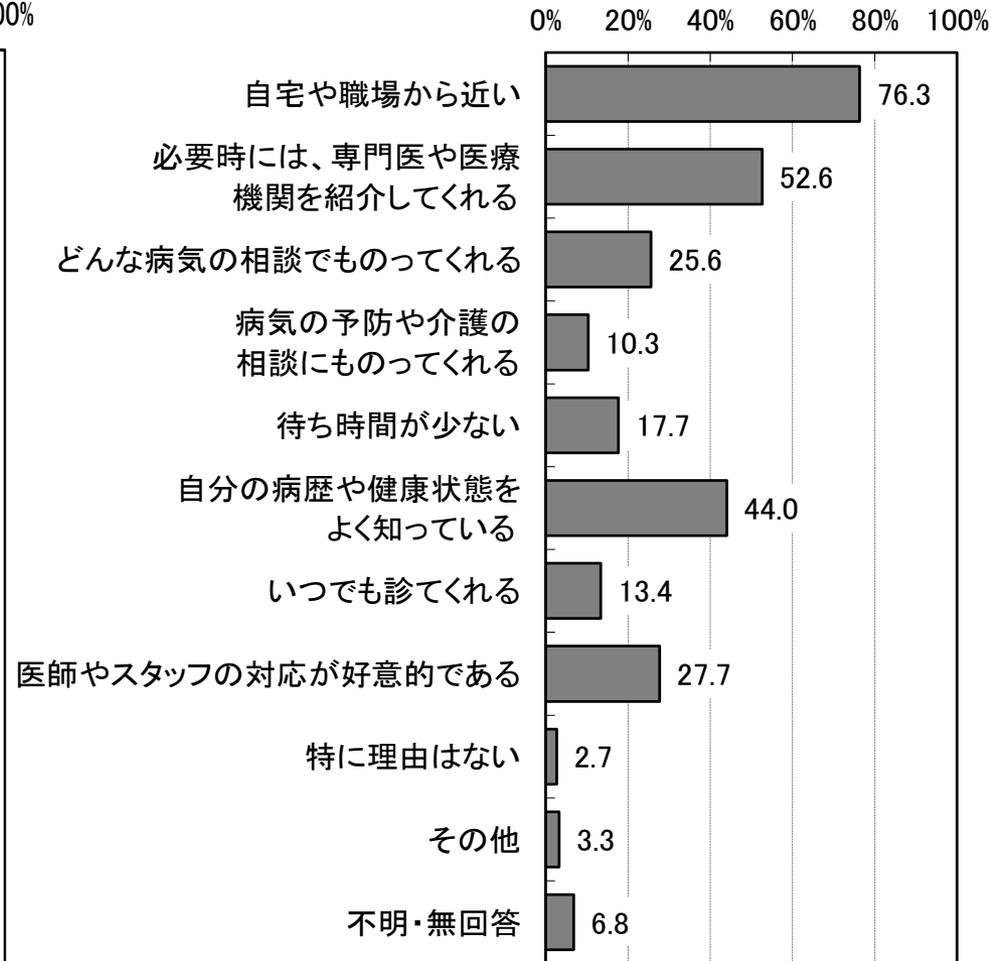
【かかりつけ医はどこの医療機関か】

2 かかりつけ医について③

大規模病院をかかりつけ医にする理由は、「前から継続的に診てもらっている」が58.9%と最も多い。また、「自宅や職場から近い」「自分の病歴や健康状態をよく知っている」等の大規模病院特有ではない理由が次いで多い。



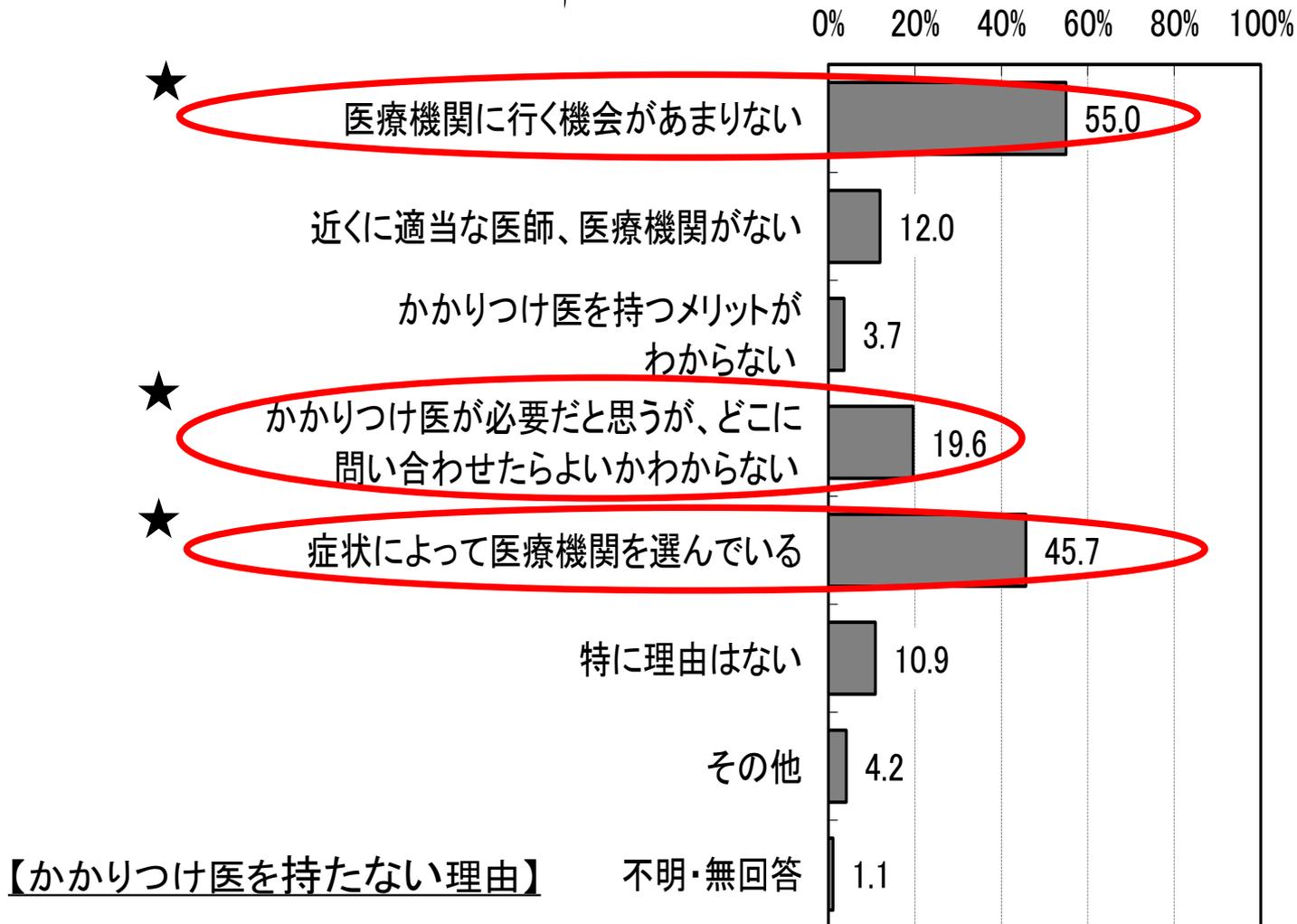
【大規模病院】



【診療所・小規模病院】

2 かかりつけ医について④

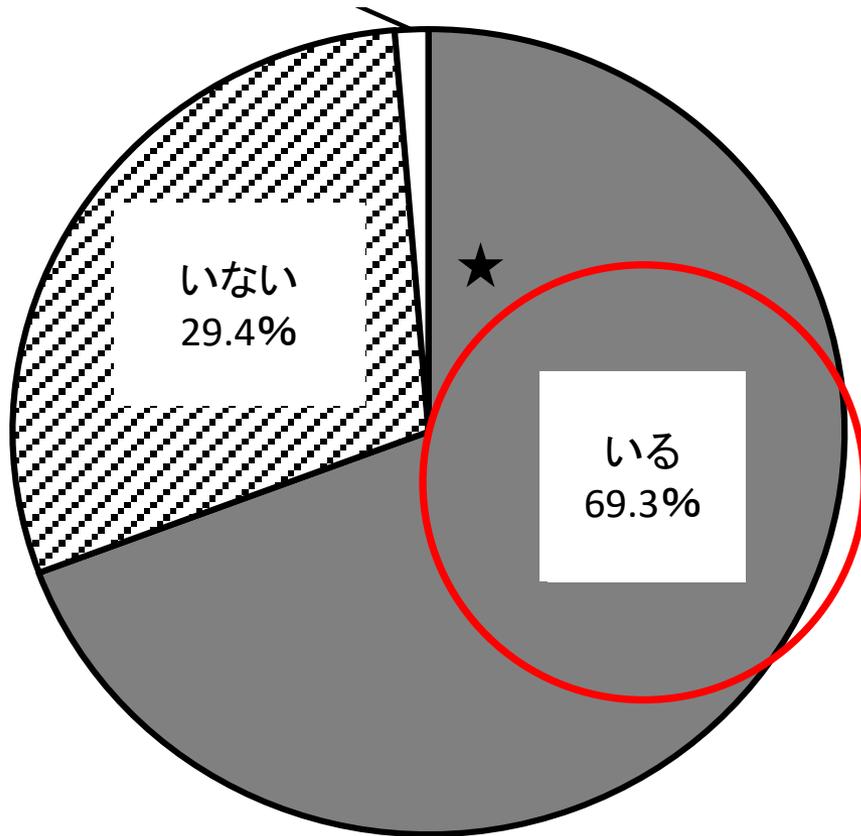
最も多いのは「医療機関に行く機会があまりない」という理由だが、次いで「症状によって医療機関を選んでいる」が45.7%、「どこに問い合わせたらよいかわからない」19.6%となっている。



3 かかりつけ歯科医について

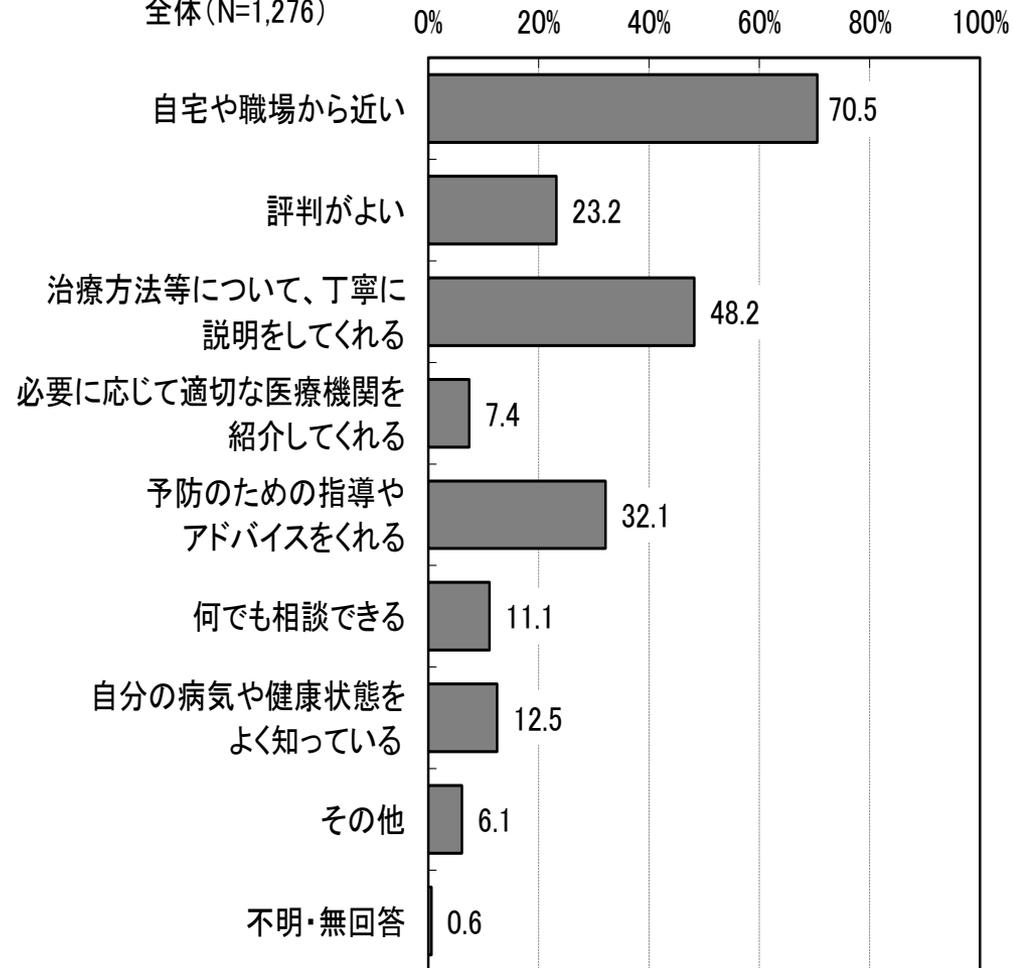
かかりつけ歯科医がいる方は、7割弱であった。利便性や対応、評判から判断して、かかりつけ歯科医を選んでいる傾向がみられる。

不明・無回答
1.3%



【かかりつけ歯科医の有無】

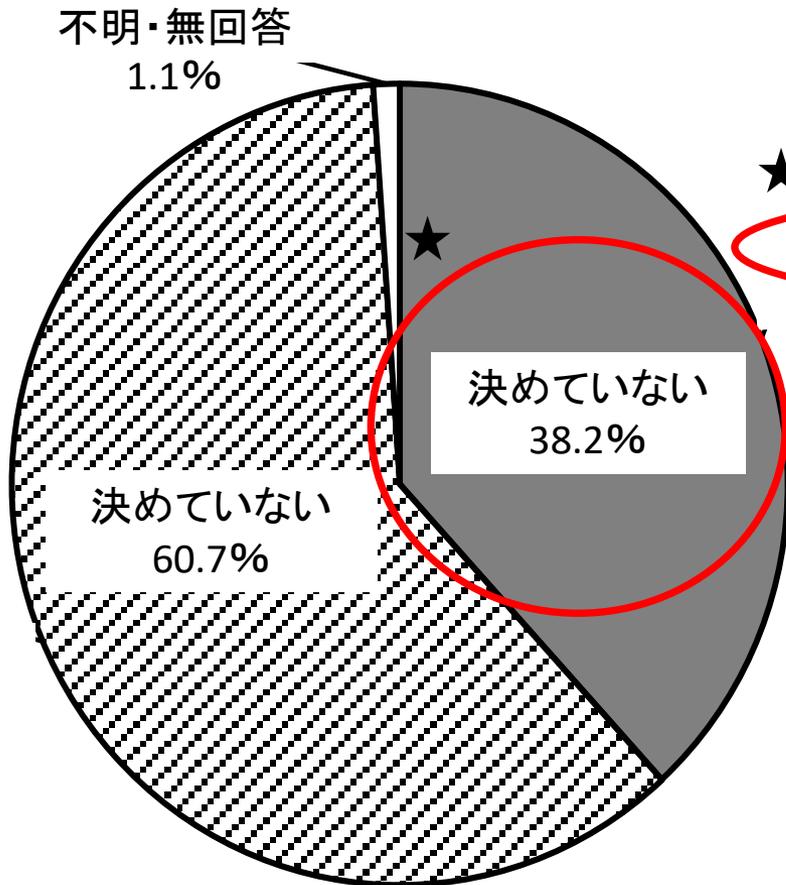
全体(N=1,276)



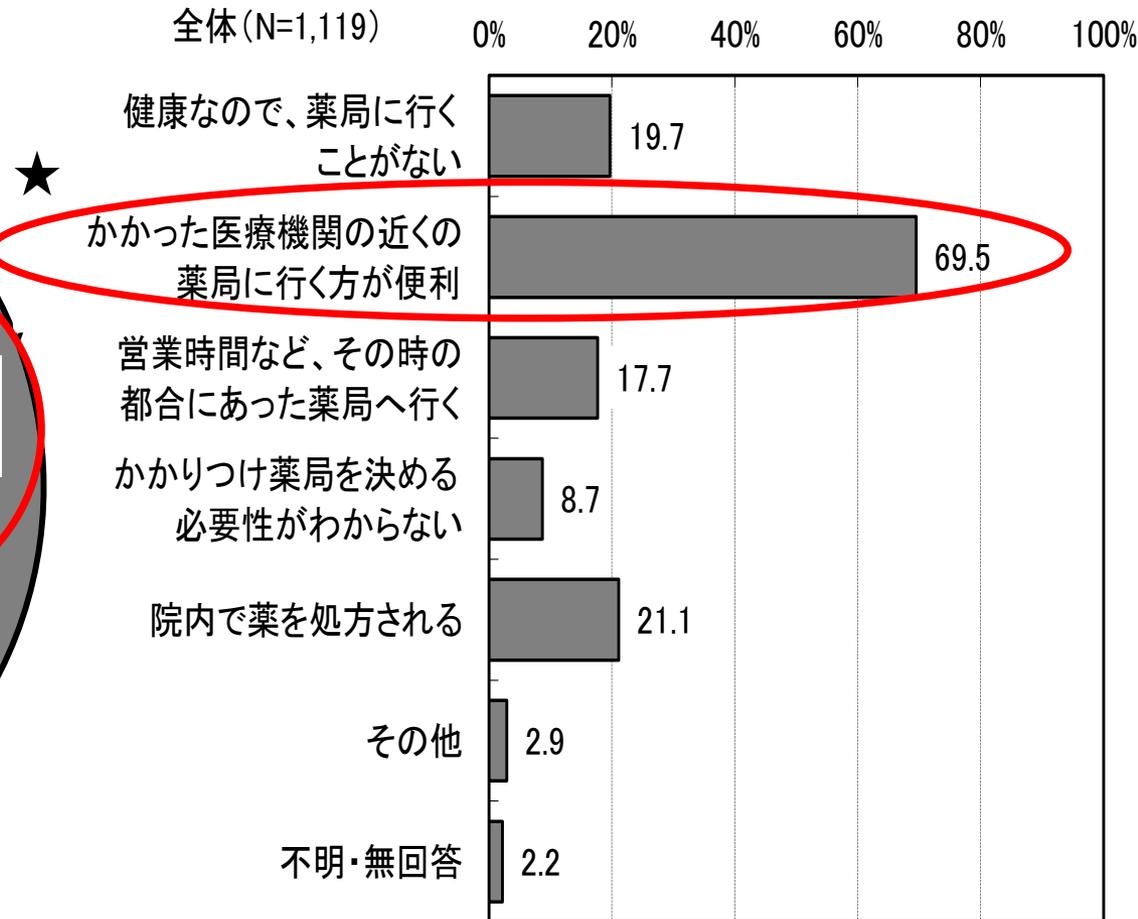
【かかりつけ歯科医を持つ理由】

4 かかりつけ薬局について

かかりつけ薬局を決めている方は、4割弱であった。またその理由としては、「かかった医療機関の近くの薬局に行く方が便利」が69.5%と最も高い。



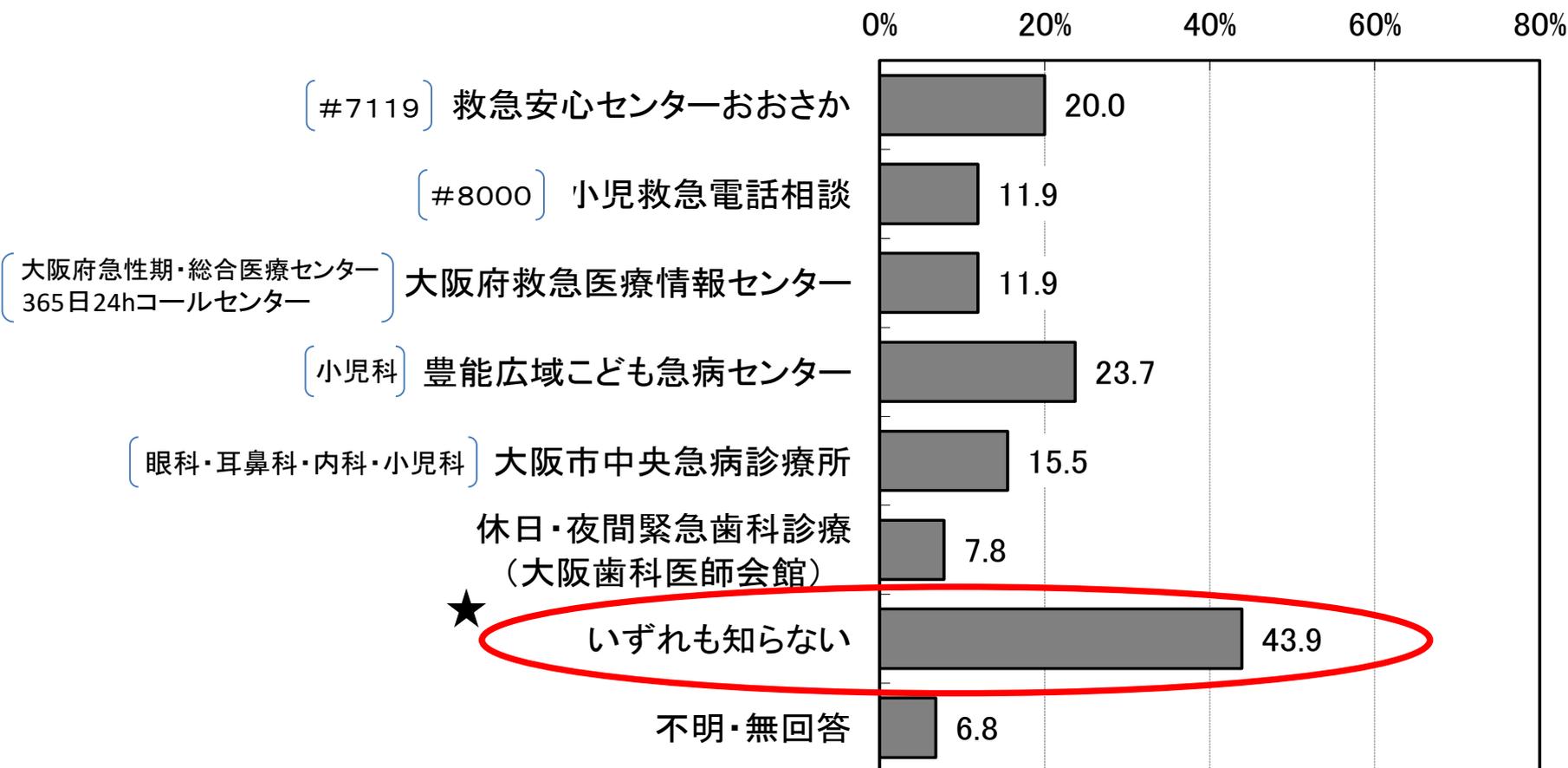
【かかりつけ薬局の有無】



【かかりつけ薬局を決めていない理由】

5 休日・夜間の受診先や相談ダイヤルの認知度について

「いずれも知らない」と答えた方が、43.9%と最も高い。
次いで「豊能広域こども急病センター（小児科）」が23.7%、「救急安心センターおおさか（#7119）」が20.0%となっている。



【市内の救急対応医療機関以外の救急として、相談・受診先の認知度】